

2006年アジア経済研究所夏期公開講座のご案内

開催期間: 2006年7月18日(火)から8月4日(金)まで

会場: ジェトロ東京本部 5階 ABCD会議室(定員100名)
 東京都港区赤坂1丁目12-32 アーク森ビル(アークヒルズ内)
 最寄り駅: 東京メトロ 南北線・銀座線「溜池山王駅」、南北線「六本木一丁目駅」、
 日比谷線「神谷町駅」、千代田線「赤坂駅」、千代田線・丸の内線「国会議事堂前駅」

プログラム: 別紙をご参照下さい。研究所のホームページにも掲載しております。URL [http://www. ide. go. jp](http://www.ide.go.jp)

お申込み: 受講ご希望の方は下記の申込書にご記入の上、ファックスでお申し込み下さい。またはホームページからお申込みが可能です(上記URL)。各コース2営業日前まで受け付けますが、定員に達したコースについてはそれ以前に締め切らせて頂く場合がありますのでご了承下さい。

受講料: 1日1コース当り(1日単位でお申込み下さい。)

一般 **4,000円** アジ研賛助会員・個人利用会員/ジェトロメンバー/学生 **2,000円**

※受付順に受講票(含:会場案内図)及び請求書(含:振込案内)を送付させていただきます。受講料は2営業日前までにお振り込み下さい。なお、振込手数料はご負担下さい。

お問合せ: 日本貿易振興機構 アジア経済研究所 研究支援部 成果普及課 石川/山岡
 〒261-8545 千葉県美浜区若葉3-2-2 Tel:043-299-9536

※ 日本語のみの講座です。

※※コース6「障害と開発-開発のイメージング・イシュー」のみ手話通訳がございます。

2006年アジア経済研究所夏期公開講座 受講申込書

FAX: 043-299-9726 (成果普及課)

■ 受講希望日(空欄に○をつけて下さい)

<p>コース1 開催日 7/18(火) 申込締切:7/13(木) 「ジェンダーと開発」を問い直す</p>	<p>コース2 開催日 7/20(木) 申込締切:7/18(火) 後発国の工業化: 貧困削減に向けて</p>	<p>コース3 開催日 7/25(火) 申込締切:7/21(金) 東アジアIT機器 産業の成長 ダイナミクス</p>	<p>コース4 開催日 7/27(木) 申込締切:7/25(火) 中東・アラブ世界— 政治的混沌はどこまで 拡大するか?—</p>	<p>コース5 開催日 7/28(金) 申込締切:7/26(水) 躍動する インド経済</p>
<p>コース6 開催日 7/29(土) 申込締切:7/27(木) 障害と開発— 開発のイメージング・ イシュー</p>	<p>コース7 開催日 8/1(火) 申込締切:7/28(金) アフリカ開発の課題: 貧困、環境、紛争</p>	<p>コース8 開催日 8/2(水) 申込締切:7/31(月) ラテンアメリカの 「左派政権」の 経済・社会政策</p>	<p>コース9 開催日 8/3(木) 申込締切:8/1(火) ベトナム :世界潮流への適応 と限界</p>	<p>コース10 開催日 8/4(金) 申込締切:8/2(水) 国際産業連関分析 入門</p>

■会社/学校名:

(フリガナ)

■部署/役職名:

■区分

一般

アジ研賛助会員 個人利用会員

ジェトロメンバーズ 学生

■お名前:

■連絡先 ご自宅 勤務先

〒

Tel:

Fax:

※ご記入いただきました情報は適切に管理し、本講座運営のために利用いたします。

※お客様の個人情報保護管理者: 日本貿易振興機構 アジア経済研究所 研究支援部 成果普及課長 Tel:043-299-9536

2006年JETROアジア経済研究所夏期公開講座プログラム

7月18日(火) コース1 「ジェンダーと開発」を問い直す

ジェンダー問題の解決は、国際社会および各国社会の密接な相互関係の中で展開してきた。例えば、日本のジェンダー平等化政策は、国際社会で合意された女子差別撤廃条約が推進力となった。また、ミレニアム開発目標は、途上国政府に対し、健康や教育面でのジェンダー格差是正を強く促している。しかし、トップダウン的な「普遍的」価値や政策は、各社会で「固有」とみなされる価値や制度と適合的でない場合もある。ジェンダーと開発にみる「普遍」と「固有」の対立を、どう理解し、乗り越えることができるか、この講座を通じて考えてみよう。

本講座のねらい

10:00-10:30

村山真弓 地域研究センター主任研究員

10:30-12:00

ジェンダー開発指数の理論と応用

野上裕生 新領域研究センター主任研究員

13:00-14:00

ジェンダー平等化は今：日本での対応から見えてくるもの

船橋邦子 和光大学教授

14:15-15:15

押し付けられた民主化と生活改善

佐藤寛 開発研究センター主任研究員

15:30-17:00

パネルディスカッション：ジェンダーと開発にみる「普遍的」価値とローカルな対応

パネリスト：野上・船橋・佐藤・熊谷圭知（お茶の水女子大学教授） 進行役：村山

7月20日(木) コース2 後発国の工業化：貧困削減に向けて

ミレニアム開発目標が立てられてから6年が経過し、貧困削減の課題は、「目標がどれだけ達成されたか」から「どのようにして目標を達成するか」に移っている。この観点から、本コースでは貧困削減のための工業の役割について議論する。貧困削減に資する工業化としては、労働集約的工業化、農産品加工による工業化、産業クラスターを活用した工業化が注目されている。本コースでは、これらのパターンによる工業化の事例を紹介する。成功の要因と同時に、発展の障害についても検討する。

10:30-12:00

労働集約産業による工業化：バングラデシュ・カンボジアの縫製業の事例

山形辰史 開発研究センター開発戦略研究グループ主任研究員

13:00-14:30

産業集積による工業化：ウガンダの木工業産業クラスターの事例

吉田栄一 地域研究センターアフリカ研究グループ研究員

14:45-16:15

工業化の障害：パキスタンの労働集約的産業の事例

牧野百恵 地域研究センター南アジア研究グループ研究員

7月25日(火) コース3 東アジアIT機器産業の成長ダイナミクスー携帯電話端末のケース

携帯電話の市場が世界的に拡大するなかで、東アジアの端末産業が急速にプレゼンスを高めてきている。韓国のサムスン電子とLG電子の2社は、国際的なブランドとしてすでに日本企業を凌駕するシェアを獲得した。台湾ではPCの受託生産(ODM)でのめざましい成功を基盤に、携帯電話端末への多角化が積極的に進められている。一方中国では巨大な国内市場をめぐって、外資と地場メーカーの間で熾烈な競争が繰り広げられている。本コースではこれら3カ国・地域の地場携帯電話端末メーカーの成長ダイナミクスの検討を通じて、東アジア電子産業の高度化の実態を立体的に把握することをねらう。

10:30-12:00

韓国ー国際ブランドの確立と重層的な産業組織

安倍誠 新領域研究センター技術革新と成長研究グループ副主任研究員

13:00-14:30

台湾ー受託生産路線を通じた産業発展

川上桃子 新領域研究センター技術革新と成長研究グループ研究員

14:45-16:15

中国ー巨大市場のなかの地場企業：再起への模索

今井健一 地域研究センター東アジア研究グループ副主任研究員

7月27日(木) コース4 中東・アラブ世界—政治的混沌はどこまで拡大するか?—

イラク戦争勃発から3年。同国を「内戦」へと至らしめた国際社会の干渉、とりわけ米国主導の「対テロ戦争」と「民主化」は、周辺アラブ諸国にも大きな変化と混乱をもたらしている。本講座では、こうした情勢を念頭においたうえで、エジプト、イスラエル、パレスチナ、シリア、レバノンに焦点をあて、これらの国・地域がいかなる政治的変化を経験してきたのか、そしてこうした変化は今後のアラブ情勢、中東情勢にいかなるインパクトを及ぼすのかを探る。

10:30-12:00 シリア・レバノン—「民主化」圧力がもたらした「非民主主義」と政治的混沌—
青山弘之 地域研究センター中東研究グループ研究員

13:00-14:30 エジプト—「民主化」とイスラーム運動—
横田貴之 財団法人日本国際問題研究所研究員

14:45-16:15 パレスチナ・イスラエル—新たな政治的枠組みの出現と再定義を迫られる「和平」
臼杵陽 日本女子大学教授

7月28日(金) コース5 躍動するインド経済

2003年度から3年連続でインドの経済成長率は7%を上回った。インドは、中国に続いて、高度経済成長を遂げることができるのであろうか。この問題を考えるためには、インド経済の成長要因だけではなく、現在抱えている問題点も含めて検討する必要がある。インド経済の成長過程を検証するほか、急速に変化しているインドの投資環境、先進国で特許期間が満了した医薬品の製造で成長を遂げている製薬産業を取り上げる。

10:30-12:00 インド経済の光と陰
内川秀二 研究企画部研究企画課長

13:00-14:30 インド市場と日本企業
宮原豊 対日投資部長

14:45-16:15 特許制度改革下におけるインド製薬産業の動向
久保研介 開発研究センター開発戦略研究グループ研究員

7月29日(土) コース6 障害と開発—開発のイマージング・イシュー

「障害と開発」は、開発分野のイマージング・イシューである。開発途上国に世界の7~8割がいると言われる障害者の問題を抜きにしては、ミレニアム開発目標の達成もおぼつかない。人間の安全保障という観点からも重要な意味を持つ途上国の障害者というこれまで開発研究・地域研究の中であまり取り上げられてこなかったテーマが今、注目を浴びつつある。本コースでは、そのイントロダクションから、各地域・フィールドでの最新の研究報告を取り上げ、フロアを交えたディスカッションも行う。

※本コースには手話通訳がごさいます。

10:30-12:00 「障害と開発」—今、何が起きているのか?
森壮也 新領域研究センター貧困削減・社会開発研究グループ副主任研究員

13:00-14:00 ろう者・教育・人間開発—西・中部アフリカの事例
亀井伸孝 関西学院大学 COE 特任助教授

14:10-15:10 障害者の司法へのアクセス—中国の事例
小林昌之 開発研究センター法・制度研究グループ主任研究員

15:30-16:30 パネル・ディスカッション:「開発と障害の相互接近」
司会:野上 裕生(新領域研究センター主任研究員)
パネラー:森・亀井・小林・寺本実(地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ研究員)

8月1日(火) コース7 アフリカ開発の課題: 貧困、環境、紛争

アフリカの開発問題は、今日の国際社会が取り組むべき重要なテーマの一つである。しかし多くの要因が複雑に絡み合って現出するアフリカの開発問題の根は深く、その解決には多角的な現状理解に基づいた長期的な取り組みが必要となっている。本コースでは、貧困、環境、紛争という、現代アフリカが抱える3つの重要課題をとりあげ、具体例に基づきながらその要因や実態を説明すると共に、アフリカ開発に向けた含意と展望を考察する。

10:30-12:00 武力紛争の要因と平和構築の課題
武内進一 地域研究センターアフリカ研究グループ主任研究員

13:00-14:30 農村貧困問題 —マラウイにおける村落実態調査の結果から—
高根務 地域研究センターアフリカ研究グループ副主任研究員

14:45-16:15 国際環境レジームとアフリカ諸国 —砂漠化対処を中心に—
望月克哉 新領域研究センター主任研究員

8月2日(水) コース8 ラテンアメリカの「左派政権」の経済・社会政策

1990年代のラテンアメリカ諸国では、市場原理を重視するネオリベラル経済政策が多くの政権で採用されていた。しかし2000年代になると、多数の「左派政権」が登場し、社会のひずみにも注目し、社会政策を重視する政策を採用するようになった。ところがこれら「左派政権」は経済・社会・外交政策において一様ではなく、政権成立の背景もそれぞれ異なっている。そこで本講座では、チリ、アルゼンチン、ペルーおよびベネズエラを事例とし、ラテンアメリカの「左派政権」の採用している経済・社会政策の特色、また各政権成立の背景を説明する。

- 10:30-10:45 **ラテンアメリカ「左派政権」の構図**
上谷直克 地域研究センターラテンアメリカ研究グループ研究員
- 10:45-11:50 **チリ「バチェレ『自由主義左派』政権のジレンマと対日経済関係」**
北野浩一 地域研究センターラテンアメリカ研究グループ副主任研究員
- 13:00-14:05 **アルゼンチン「ラプラタの奇跡の後に—キルチネル政権の経済・社会政策—」**
宇佐見耕一 地域研究センターラテンアメリカ研究グループ主任研究員
- 14:15-15:20 **ペルー「過去から学んだガルシア政権の新経済政策—成長と貧困削減の両立に向けて」**
清水達也 地域研究センターラテンアメリカ研究グループ研究員
- 15:30-16:35 **ベネズエラ「チャベス・ボリバル革命の検証と展望」**
坂口安紀 地域研究センターラテンアメリカ研究グループ副主任研究員

8月3日(木) コース9 ベトナム：世界潮流への適応と限界

世界貿易機関(WTO)加盟も射程に入ってきたベトナムは、経済分野を中心に「グローバリゼーション」の波及により様々な分野で「世界標準」への適応を迫られている。本講座ではベトナムが進もうとしている全体的方向性を考えるとともに、経済分野、社会分野での取り組みを紹介する。経済分野では産業、農村を舞台にして繰り広げられる経済的生き残りへの営みを検証する。社会分野では、障害者福祉の分野に焦点をあて、そこから見えてくるベトナムの課題を考えたい。

- 10:45-12:00 **選ばれた方向性—第10回党大会の検討から—**
寺本実 地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ研究員
- 13:00-14:20 **製造業における地場企業の挑戦—軌跡と展望—**
藤田麻衣 地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ研究員
- 14:30-15:50 **農村経済発展の方向性と経営主体の奮闘**
荒神衣美 地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ研究員
- 16:00-17:00 **社会分野の取り組み—障害者福祉を『窓』として—**
寺本実 地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ研究員

8月4日(金) コース10 国際産業連関分析入門

あらゆる産業でグローバル化の傾向が見られる今、アジア地域では国境を越えた複雑な産業間ネットワークが形成されつつある。アジア経済研究所の『アジア国際産業連関表』は、アジア地域におけるこのような産業ネットワークの「見取り図」として、産業政策の協調や国際マクロ政策などの重要な問題に対し、有効な分析ツールとなっている。本講座では、現在さまざまな分野への応用が期待される国際産業連関分析について、数式を用いずに平易に解説する。

- 10:30-12:00 **国際産業連関分析の基礎 —国際産業連関分析とは何か—**
猪俣哲史 開発研究センターマイクロ経済分析グループ主任研究員
- 13:00-14:30 **国際産業連関分析の実際 —2000年アジア国際産業連関表を用いて—**
桑森啓 開発研究センターマイクロ経済分析グループ研究員
- 14:45-16:15 **国際産業連関分析の応用 —CGE、多変量解析、空間経済学への展開—**
孟渤 開発研究センターマイクロ経済分析グループ研究員